

新設210賞を含む834賞の全貌がわかる

最新 科学賞事典 2008-2012

日外アソシエーツ 編

I 理学・工学

A5・970頁 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2420-0 2013年7月刊行



II 医学・薬学・農学・総合領域

A5・550頁 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2421-7 2013年7月刊行



自然科学・工学関連の賞を網羅

●2008～2012年までの自然科学・工学分野の賞を網羅した賞の事典です。「日本化学会女性化学者奨励賞」「日本ロボット学会功労賞」など前版刊行以降に新設された210賞も含め、理学・工学分野の賞(428賞)と医学・薬学・農学・総合領域分野の賞(406賞)を2分冊に収録しました。

5年間の受賞者と受賞理由を記載

●各賞には由来・趣旨、選考方法・基準、賞金、主催者など賞の概略および、各年度ごとの受賞者・受賞理由を記載しています。

●「主催者索引」「受賞者名索引」付き。

●前版以降の新設54賞を含む688賞収録

好評既刊

最新 科学賞事典 2003-2007

A5・1,080頁 定価(本体19,800円+税) 978-4-8169-2085-1 2008.1刊

●収録賞例 (*新規収録賞) ●

【I 理学・工学】

江崎玲於奈賞/Optics & Photonics Japan ベストプレゼンテーション賞/計測自動制御学会賞/錯体化学会国際賞*/十大新製品賞/新化学技術研究奨励賞*/大気環境学会賞/電気科学技術奨励賞/日本応用数理学会業績賞*/日本化学会功労賞*/日本火山学会論文賞*/日本希土類学会賞/日本原子力学会賞/日本建築学会教育賞/日本照明賞/日本地震学会論文賞*/日本地すべり学会賞/日本天文学会研究奨励賞/日本トライボロジー学会技術賞*/日本表面科学会賞/日本品質管理学会研究奨励賞/日本物理学会論文賞/日本ペプチド学会奨励賞*/日本放射線安全管理学会学術業績賞*/日本民俗建築学会奨励賞*/日本ロボット学会賞/発明大賞/腐食防食学会賞/藤原洋数理科学賞*/放射線賞/溶接学会業績賞/レーザー学会業績賞・奨励賞/ロボット大賞 …など428賞

【II 医学・薬学・農学・総合領域】

沖縄生物学会池原貞雄記念賞*/環境化学会賞/北日本病虫害研究会賞*/黒澤賞*/女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞/「総合リハビリテーション」賞/高松宮妃癌研究基金学術賞/日本宇宙航空環境医学会学術論文賞/日本運動器科学会奨励賞/日本カウンセリング学会賞*/日本環境感染学会賞*/日本雑草学会賞/日本女性医学学会賞*/日本動脈硬化学会賞*/日本毒性学会賞*/日本犯罪学会賞/日本皮革技術協会賞/日本病理学会学術奨励賞/日本哺乳類学会賞*/日本薬劑学会賞/日本酪農科学会賞/野口英世アフリカ賞*/日野原重明賞/松下幸之助花の万博記念賞/Young Investigator Award (日本小児感染症学会)* /和漢医薬学会賞…など406賞

2016.12

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名	注文書	最新科学賞事典 2008-2012 I 理学・工学 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2420-0	冊
		最新科学賞事典 2008-2012 II 医学・薬学・農学・総合領域 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2421-7	冊
		■お名前	

377 日本地震学会論文賞

優れた論文により地震学に重要な貢献をした功績を称えるため、著者に贈る賞として、2003年に論文賞が創設された。【主催者】(公社)日本地震学会【選考委員】非公開【選考方法】推薦。論文賞選考委員会が、推薦された全論文について審議し、受賞候補論文を理事会に推薦する。選考委員会から推薦された候補論文について理事会が審議し、3件以内の受賞者を決定する。【選考基準】原則として授賞年度の前年度の3月31日から遡って2年以内に、学会誌「地震」、欧文学術誌「Earth, Planets and Space」に発表された原著論文(レビュー論文は除く)の内、論文の重要性が特に顕著であると認められた論文。【締切・発表】平成24年度募集期間:平成24年9月10日~平成25年1月31日。発表:平成25年4月。贈呈式:平成25年5月【賞・賞金】賞状及び副賞(メダル)【連絡先】〒113-0033 東京都***区***** 東京**** 公益社団法人 日本地震学会【TEL】03-***-***【FAX】03-***-***【E-mail】*****@tokyo.email.ne.jp【URL】http://www.zisin.jp/

賞の概要

由来・趣旨、
選考方法・選考基準、
賞金、主催者・連絡先など

<受賞者>

- (平15年) ☒ 永井理子, 菊地正幸, 山中佳子「三陸沖における再来大地震の震源過程の比較研究—1968年十勝沖地震と1994年三陸はるか沖地震の比較—」〔地震(第2輯)第54巻, 第2号, 267-280〕
- ☒ 濱田信生, 吉川一光, 西脇誠, 阿部正雄, 草野富二雄「1923年関東地震の余震活動の総合的調査」〔地震(第2輯)第54巻, 第2号, 251-265〕

- (平16年) ☒ Makiko Yamauchi, Kazuro receiver function imaging the crust and the upper mantle [Earth Planets and Space]

- (平22年) ☒ 水藤尚, 小沢慎三郎「東海沖年記伊半島南東沖の地震の135」

- ☒ Yoshihiro Matsumoto, Tadao Sato, Hiroaki Saito, Masahito [Weak interplate coupling observation] [Earth Planets and Space]

- (平23年) ☒ Takuto Maeda, Kazushige decrease and recovery of geothermal area [Earth Planets and Space]
- ☒ 加納将行, 宮崎真一, 伊藤ジョイント法による摩擦

367 野口英世アフリカ賞

野口博士の志を引き継ぎ、アフリカのための医学研究・医療活動それぞれの分野において顕著な功績を挙げた方々を顕彰し、アフリカに住む人々、ひいては人類全体の保健と福祉の向上を図ることを目的とする。5年ごとに日本で開催されるアフリカ開発会議(TICAD)の機会に、授与する。第1回授賞式は、2008年5月28日(TICAD IVの初日)に横浜で行われた。第2回授賞式は、2013年6月1日に横浜で行われる予定である。【主催者】内閣府【選考委員】「野口英世アフリカ賞」委員会(50音順)安西祐一郎(日本学術振興会理事長)、尾身茂(名誉WHO西太平洋地域事務局長)、黒川清(政策研究大学院大学教授)、杉村隆(日本学士院幹事)、高添一郎(野口英世記念会会長)、横倉義武(日本医師会会長)、米倉弘昌(日本経済団体連合会会長)、渡邊治雄(国立感染症研究所所長)、Awa M. Coll-Seck(セネガル保健・社会活動大臣(セネガル、女性)), Laurie Garrett(外交問題評議会シニア・フェロー(米、女性)), Tore Godal(ノルウェー首相特別補佐官(ノルウェー)), Marc Tessier-Lavigne(ロックフェラー大学学長(加)), Mark Walport(ウェルカム・トラスト理事長(英))【選考方法】野口英世アフリカ賞は、1:医学研究、2:医療活動の2つが受賞対象分野である。国内外の推薦を受けた者の中から、医学研究分野については独立行政法人日本学術振興会に設けられる医学研究分野推薦委員会が、医療活動分野については世界保健機関アフリカ地域事務局(WHO/AFRO)に設けられる医療活動分野推薦委員会が、それぞれの分野の受賞候補者を最大3名まで絞り込み、内閣府に設けられる野口英世アフリカ賞委員会が、最終候補者を選考する。最終的には内閣総理大臣が、野口英世アフリカ賞委員会の推奨に基づき、授賞者を決定。【選考基準】〔対象〕アフリカでの感染症等の疾病対策のため、アフリカの医学研究分野又は医療活動分野において顕著な功績を遂げた者。〔資格〕国籍・年齢・性別については、問わない。生存者に限る。【締切・発表】第2回野口英世アフリカ賞の場合、推薦受付締切/2012年7月31日 発表/2013年3月13日【賞・賞金】賞金は医学研究分野、医療活動分野それぞれに受賞者に対し1億円を授与。政府の資金に相当する。

最近5年間の 受賞者と受賞理由

<受賞者>

第1回(平20年)

- ◇医学研究分野☒ ブライアン・グリーウッド(ロンドン大学衛生熱帯医学大学院教授)“アフリカで30年以上にわたりマラリアをはじめとする感染症の免疫病理学、疫学、人類学、行動学等に及ぶ多角的研究と実践対策に功績”
- ◇医療活動分野☒ ミリアム・K・ウェレ(ケニア国家エイズ対策委員会(NACC)委員長)“過去40年間、生涯をアフリカに住む人々、特に女性と子どもの保健と福祉の向上と、コミュニティにおける基礎医療サービスの提供に尽力”

第2回(平25年)

- ◇医学研究分野☒ ピーター・ピオット(ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長)“常に活動の拠点をアフリカに置き、HIV/エイズとエボラ出血熱をはじめとして、アフリカ大陸の多くの地域に存在する疾病についての中心的な研究を行った”
- ◇医療活動分野☒ アレックス・G・コウティニョ(マケレレ大学感染症研究所所長)“HIV感染者の7割が住むアフリカにおいて感染者が治療を受ける機会を増やす先駆的な活動を行った。アフリカで長く活動をしているHIV感染者支援団体であるTASOと共に現場で活動し、HIV/エイズの予防、治療・ケアの仕組みを構築し、アフリカで広く適用できるモデルとして普及させた”